

## 第3回「薬剤耐性(AMR)あるある川柳」 入賞作品発表

2020年3月23日(月)より公開

[http://amr.ncgm.go.jp/information/2019senryu\\_result.html](http://amr.ncgm.go.jp/information/2019senryu_result.html)

昨年11月の「薬剤耐性(AMR)対策推進月間」啓発活動において、薬剤耐性(AMR)対策を自分の事として関心をもっていただくために「第3回 薬剤耐性(AMR)あるある川柳」の公募を行いました。今回は前を上回る2,801作品の応募をいただき、昨今の関心の高さを実感しました。

応募作品は当センターにおいて選考を重ね、最終選考の中から、金賞1作品、銀賞2作品、佳作10作品の入賞作品を決定しました。また今年にはこれらの賞に加え、一般投票から1作品「いいね賞」を選出いたしました。入賞作品につきましては、AMR情報サイトにて3月23日(月)より公開いたします。

いいね賞

医者の指示  
守って防ぐ  
耐性菌

ぷーちゃん

川薬耐

銀賞

耐性菌  
減らすスクラム  
ワンヘルス  
リーチ・マイ菌

川薬耐

銀賞

つなげよう  
薬の安心  
次世代へ

むっちゃん

川薬耐

金賞

耐性菌  
生むも無くすも  
あなたから

竹井龍

川薬耐

佳作

治ったと残す薬に残る菌  
たおやめ

とりあえず飲んだ薬で耐性菌  
ぶんちゃん

抗菌薬残しておくより知っておく  
ぷっちょ

守ろうよ抗菌薬の効く未来  
ほりたく

耐性菌知識と意識で増やさない  
ままっち

飲んじゃダメ前回処方薬だよ  
笑魅胡

見えますか？薬が効かなくなる未来  
桂

ウイルスに抗菌薬は無駄遣い  
群青更紗

菌だって生き延びたいさ知恵比べ  
モカママ

とりあえず飲めば安心そうじゃない  
Pizzagiri

## 【総評】

今年で3回目となる「薬剤耐性(AMR)あるある川柳」の募集に、全国から2,801句のご応募をいただきまして誠にありがとうございました。

“薬剤耐性”という言葉を目にする機会がしだいに増えてきています。また、抗菌薬適正使用の重要性は医療従事者以外の方々にも少しずつ知られるようになってきました。しかし、いずれもまだまだ十分とはいえません。そのような状況の中でもAMR対策について、川柳を通じて昨年よりも多くの方に考えていただけたことを大変うれしく思っています。

応募作品には、薬剤耐性(AMR)や抗菌薬を自分ごととして正しく捉えた作品、医師と患者のコミュニケーションを取り上げた作品、動物や環境を含めたワンヘルスの考え方を強調した作品、未来を見据えた作品など、さまざまなメッセージがこめられていました。薬剤耐性(AMR)対策をさらに推進していく上でどれも大切なことです。

私たちは、“薬剤耐性(AMR)”や“抗菌薬の適正使用”について、さらに多くの方々に知っていただくために、この川柳を使って啓発を進めていきます。様々な活用法を考えて参ります。

今年もすばらしい作品をどうもありがとうございました。

国立国際医療研究センター病院  
AMR臨床リファレンスセンター  
センター長 大曲 貴夫

\* 公募期間：2019年11月1日～2019年11月30日

\* 入賞者には賞状と記念品をお送りします。

\* 川柳、ペンネームは、すべて応募者の表記にしたがっているため、一部当て字等の表記で掲載しています。

\* 作品の著作権は、すべて国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンターに帰属しています。無断での転載、使用はご遠慮ください。

\* 入賞および応募作品につきましては、当センターのウェブサイト、SNS、報道資料等、広告広報活動の一環として使用いたします。

発表にあたり、当初の予定より発表が遅れましたことを、深くお詫び申し上げます。

## AMR対策の必要性

### ～ 抗菌薬・抗生物質は不適切に使うことで、本当に必要な時に効果が発揮できなくなる～

抗菌薬・抗生物質は細菌が増えるのを抑えたり、殺したりする薬です。しかし、細菌もさまざまな手段を使って生き延びようとします。本来ならば効くはずの抗菌薬・抗生物質が効かなくなること「薬剤耐性 (AMR: Antimicrobial resistance)」といいます。2019年4月29日、国連は抗生物質が効きにくい薬剤耐性菌が世界的に増加し、危機的状況にあるとして各国に対策を勧告しています。日本では、外来診療での抗菌薬・抗生物質使用が9割以上を占めており、外来診療で抗菌薬・抗生物質の適正使用を推進することが不可欠といえます。

日本では毎年11月を「薬剤耐性(AMR)対策推進月間」と設定してAMR対策の必要性を知らせる様々な取り組みを行っております。